

平成 30 年度

運営に関する計画

大阪市立難波中学校

学校教育目標

- ・ 豊かな心をもち、自らの人生を切り拓いていける生徒を育成する。
- ・ 教職員集団がそれぞれの能力を發揮し、連携・協力し、子どもたちを最大限に成長させる教育活動を追求する。
- ・ 一人ひとりの生徒を大切にする教育を進め、人権尊重の精神にあふれる学校づくりを推進する。人権教育活動に力を入れる地域性や歴史・伝統等の特色を生かし、学校全体の人権感覚を高める。

子ども像(校訓)　　自律・協力・創造

- ・ 自ら考え、正しく判断し、行動できる子ども。
- ・ 人を思いやる優しい心で、お互いの人権を尊重し、社会から必要とされる、求められる子ども。
- ・ 心身を鍛え、努力を積み重ねることで、新しい発想や考え方、チャレンジ精神を持つ子ども。

大阪市教育振興基本計画:最重要目標

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・ 教科指導の方法を工夫・改善し、ICT機器の活用等を通して、授業の質を高め、子ども一人ひとりの状況に応じた学力を向上させる。
- ・ 子どもの学習習慣の確立に向けて、個に応じた教育の充実を図る。また、小中の連携をさらに強化する。
- ・ 規則正しい生活習慣を身につけ、健康や体力の保持・増進について関心を高め、たくましく生きる基礎体力づくりをめざす。

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家族・地域)の実現】

- ・ 教育活動のあらゆる場面で自尊感情を高めるとともに、違いを認めあい、他者理解ができる確かな人権感覚のある生徒の育成をめざす。
- ・ 子どもたちが良好な人間関係を構築し、自己実現できる学級・学年集団、学校づくりを推進する。

大阪市立難波中学校 平成30年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

安全・安心な学校づくりをめざして、全教職員が連携して問題行動を未然に防止する指導に力を入れて取り組み、学校の規律を維持している。また、豊かな心を育む教育を推進し、他者を思いやる優しい心の育成に努めている。さらに、学校の教育活動のあらゆる場面で、生徒に自信を持たせるよう取り組み、自尊感情を高めるようにも努めている。しかし、日本語の指導や配慮を要する生徒が増えており、個に応じた支援をさらに充実させていかなければならない。

学習面では、ICT機器を活用し、生徒の関心・興味を高める一方、個に応じた学習を進めているが、学習習慣の定着がはかりきれていない。全国学力・学習状況調査や中学校チャレンジテストにおいて、本校の各項目の平均正答率は大阪市の平均に及ばず、学力の向上が喫緊の課題である。

また、起床時間や就寝時間など基本的な生活習慣においても課題があり、さらに家庭と連携しながら、生活のリズムを整え、健康の保持・体力の向上もはかっていかなければならない。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○平成29年度～32年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて組織的に対応している割合を100%にする。

○毎年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を毎年、前年度より減少させる。

○毎年度末の校内調査において不登校の生徒の割合を前年度より減少させる。

○平成29年度～32年度の年度末の生徒アンケートにおける「集団や社会のルール、道徳マナーを守っていくことの大切さを学んだ」、「他者を思いやり、相手の立場になって考え、優しい心を持って行動できるように努めた」の項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える生徒の割合を75%以上に維持する。

○平成32年度末の生徒アンケートにおける「学校の規則を守っている」の項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える生徒の割合を90%以上にする。

○平成32年度末の保護者・生徒アンケートにおける「自分の悩みを相談できる人がいる・できている」の項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える保護者・生徒の割合をそれぞれ90%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○平成 32 年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、平成 28 年度より向上させる。(標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答率が、それぞれ 100 となるよう標準化した得点のこと)

○平成 32 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 4 割以下の生徒を、いずれの学年も平成 28 年度より 10 ポイント減少させる。

○平成 32 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 7 割以上の生徒を、いずれの学年も平成 28 年度より 5 ポイント増加させる。

○平成 32 年度の全国学力・学習状況調査の生徒質問紙における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に對して「している（どちらかいえばしている）」と答える生徒の割合を平成 28 年度より増加させる。

○平成 32 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点を、平成 28 年度より 7 ポイント向上させる。

○平成 29 年度～32 年度の年度末の生徒アンケートにおける「規則正しい生活をしている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を 70% 以上に維持する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

○年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。

○校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える生徒の割合を 85% 以上にする。

○年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。

○年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

○平成 30 年度末の生徒アンケートにおける「集団や社会のルール、道徳マナーを守っていくことの大切さを学んだ」、「他者を思いやり、相手の立場になって考え、優しい心を持って行動できるように努めた」の項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える生徒の割合を 75% 以上にする。

○平成 30 年度末の保護者・生徒アンケートにおける「自分の悩みを相談できる人がいる・できている」の項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える保護者・生徒の割合をそれぞれ 90% 以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- 中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より4ポイント減少させる。
- 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。
- 校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 体育の授業で、全身運動や柔軟性を高める活動を毎時間行い、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「上体起こし」、「長座体前屈」で大阪市平均に近づけ、体力合計点を向上させる。

学校園の年度目標

- 全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の向上に向けて、新体力テストを年に2回実施し、春より秋の体力合計点を向上させる。
- 平成30年度末の生徒アンケートにおける「規則正しい生活をしている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を70%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立難波中学校 平成30年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

学力	評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかつた D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかつた						
	年度目標			達成状況			
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より4ポイント減少させる。</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。</p> <p>○校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。</p>							
<p>学校の年度目標</p>							
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標				進捗状況			
<p>取組内容①【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>国語・数学・英語において、学校力UPコラボレーターや学びサポーターと連携し、全学年とも習熟度別少人数授業を充実させる。</p>							
<p>指標</p> <p>国語・数学・英語において、全学年とも年間を通じて2人体制もしくは3人体制で授業を実施し、計画的に習熟度別少人数学習を行う。</p>							
<p>取組内容②【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>定期テストに加えて、国語・社会・数学・理科・英語で定期テストに準ずるステップアップテストを全学年で行い、これに向けての放課後学習・宿題等を行わせることで学習習慣の定着を図る。</p>							
<p>指標</p> <p>国語・社会・数学・理科・英語において年間5回（3年生は4回）のステップアップテストを行う。</p>							
<p>取組内容③【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>得点低位層に対する補充学習を行い、基礎・基本の学習の徹底を図る。</p>							

<p>指標</p> <p>定期テスト・ステップアップテストにおける得点低位層に対し、各教科が各学年と連携して補充学習を行う。また、登校前の朝の時間に自習室を開放し、自学自習を促す。</p>	
<p>取組内容④【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>各学年で家庭学習に向けた取り組みを推進し、学習習慣を定着させる。</p>	
<p>指標</p> <p>1年生の初めに「学習の手引き」を作成し、各学年、各教科で予習・復習等の家庭学習の方法を、年間を通じて継続的に指導する。</p>	
<p>取組内容⑤【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>学校力 UP コラボレーターや学びサポーターや学校元気アップ事業、人権教育部と連携し、放課後、テスト前、長期休業中の学習会を行う。</p>	
<p>指標</p> <p>多目的室や図書室等の校内の施設を自習室として計画的に開放する。</p>	
<p>取組内容⑥【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p>	
<p>研究授業や教師間の相互授業参観を行い、教師の授業力をのばす。</p>	
<p>指標</p> <p>相互授業参観週間を2学期に行う。年5回の研究授業を行う。</p> <p>各学期に生徒対象の授業アンケートを行う。</p>	
<p>取組内容⑦【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>学校全体でのユニバーサルデザインの授業やICT機器の活用により、生徒の学習理解の充実を図る。</p>	
<p>指標</p> <p>校内研修会を実施し、学校全体でユニバーサルデザインの共通理解を図る。</p> <p>電子黒板、タブレット端末等のICT機器を活用した授業を計画的に行う。</p>	
<p>取組内容⑧【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>アクティブ・ラーニングを取り入れた授業展開を図り、自らの考えを発表したり、友達の意見を聴いたりする機会をとる。</p>	
<p>指標</p> <p>グループ学習や班学習、ジグソー法などの手法を授業で積極的に取り入れ、生徒が発表、報告、話し合いする機会をなるべく多くつくる。</p> <p>生徒アンケートで、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

大阪市立難波中学校 平成30年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

体力・健康	評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった	
	年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>○体育の授業で、全身運動や柔軟性を高める活動を毎時間行い、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「上体起こし」、「長座体前屈」で大阪市平均に近づけ、体力合計点を向上させる。</p>		
<p>学校の年度目標</p> <p>○全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の向上に向けて、新体力テストを年に2回実施し、春より秋の体力合計点を向上させる。</p> <p>○平成30年度末の生徒アンケートにおける「早寝・早起きを行っている」、「毎日、朝食を食べている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を70%以上に維持する。</p>		
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
<p>取組内容①【施策7、健康や体力を保持増進する力の育成】 適切な運動習慣を確立させ、自己の状況に応じた体力の向上と心身の調和的発達を図る。</p>		
<p>指標 新体力テストを2回実施する。</p>		
<p>取組内容②【施策7、健康や体力を保持増進する力の育成】 学校全体や各学年等での実施計画に基づき、学校行事の充実を図る。</p>		
<p>指標 各学年において、球技大会などのスポーツ活動を年2回行う。</p>		
<p>取組内容③【施策7、健康や体力を保持増進する力の育成】 「早寝・早起き」「朝ごはん」を意識づけ、生活習慣を身につけさせて健康を保持・増進できる心を養う。</p>		
<p>指標 遅刻防止習慣を年間5回（定期テスト1週間前）実施し、予鈴遅刻と本鈴遅刻の回数を減少させる。</p>		
<p>取組内容④【施策7、健康や体力を保持増進する力の育成】 学校生活及び校外生活における保健・安全管理に努める。</p>		

指標

毎月保健だよりと食育だよりを配付し、生徒及び保護者に健康への意識を浸透させる。

学校保健委員会を年間2回、安全衛生委員会を年間3回実施し、専門家から定期的にアドバイスを受ける。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

大阪市立難波中学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

社会性	評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった			
	年度目標	達成状況		
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】				
<p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p> <p>○校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える生徒の割合を85%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。</p>				
<p>学校の年度目標</p> <p>○平成30年度末の保護者・生徒アンケートにおける「悩み事などができたときに相談できる人がいる・できている」の項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える保護者・生徒の割合をそれぞれ90%以上にする。</p>				
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標				進捗状況
<p>取組内容①【施策1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>主任会や職員会議等で各学年の情報交換や道徳・人権学習の取組みの成果の確認を行い、いじめの未然防止や早期対応に努める。</p>				
<p>指標</p> <p>定期的な教育相談や個人懇談会を設け、生徒一人ひとりが抱える問題の解決に努める。また、週に1度、学校生活を振り返るアンケートの実施の他、いじめに関するアンケートを実施し、問題の早期発見・早期解決に努める。また、道徳・人権学習を生徒の発達段階に合わせて系統的・計画的に実施する。</p>				
<p>取組内容②【施策1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>暴力行為の発生には教職員全員が協力し、被害を最小に抑え迅速に対応する。生活指導支援員が週4回、生徒の見守りをし、協力体制を強化する。</p>				
<p>指標</p> <p>教職員間の協力体制の徹底、関係諸機関との連携の実施。</p>				

<p>取組内容③【施策1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】 主任会や職員会議等で各学年の情報交換を行い、不登校生の生徒理解や対応に努める。場合によっては、生活指導支援員、SC、SSWに不登校生の家庭訪問などにも協力していただく。</p>	
<p>指標 定期的な家庭訪問や家庭連絡などを実施する。</p>	
<p>取組内容④【施策1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】 学校の規則を守る意識や生活上のマナーをわきまえるなど、規範意識を高める。</p>	
<p>指標 月初めの全校集会で「服装点検」を実施し、身だしなみを主体的に整えさせる。 また、登校指導や校内巡視によって、規範意識の向上、器物破損防止に努める。</p>	
<p>取組内容⑤【施策1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】 生徒の家庭での悩み事を相談できる環境を整える。</p>	
<p>指標 表面化しにくい家庭での悩みを中心に、生徒の抱える悩みにSC、SSWの利用や関係諸機関との連携によって対応する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

大阪市立難波中学校 平成30年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

道徳心	評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった			
	年度目標	達成状況		
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】				
全市共通目標（小・中学校）				
<p>学校の年度目標</p> <p>○平成30年度末の生徒アンケートにおける「人権や平和・いのちについて考え、それらを守っていくことの大切さを学んだ」「学校生活の中で、自分も他者も尊重する活動ができた」の項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える生徒の割合を、全体の80%以上にする。</p> <p>○平成30年度末の生徒アンケートにおける「集団や社会のルール、道徳マナーを守っていくことの大切さを学んだ」、「他者を思いやり、相手の立場になって考え、優しい心を持って行動できるように努めた」の項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える生徒の割合を、全体の80%以上にする。</p>				
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>				進捗状況
<p>取組内容①【施策2、道徳心・社会性の育成】</p> <p>人権教育年間指導計画にそって、人権に関する取り組みを実施する。特に、同和教育、平和教育、特別支援教育、国際理解教育の4つを人権教育の柱とし、3年間でこれらを組織的・系統的に取り組み、人権総合学習の充実を図る。</p>				
<p>指標</p> <p>同和教育…地域産業でもある太鼓・皮革等について学ぶ 平和教育…8・6人権平和登校日、ピースおおさか見学 特別支援教育…車いす体験学習、視覚障がい者による講話 国際理解教育…ソンセンニムによる講話 生徒・保護者アンケートで「自分も他者も尊重する活動ができた」について肯定的な回答を80%以上とする。</p>				
<p>取組内容②【施策2、道徳心・社会性の育成】</p> <p>さまざまな学校行事を通して、集団の中での自分の役割と責任を自覚させる。また、相手を思いやり、優しい心を持って行動できる態度を育てる。特に、校訓である「自律」、「協力」、「創造」を意識させていく。</p>				
<p>指標</p> <p>学校全体…体育大会、文化活動発表会、なにわこども人権文化祭、部活動体験 1年生…一泊移住 2年生…校外学習（大阪市内班別行動） 3年生…修学旅行</p>				

<p>取組内容③【施策2、道徳心・社会性の育成】 3年間で系統的に行うキャリア教育を通して勤労観・職業観を養うとともに、自尊感情を高め、自己の将来について考えさせる。</p>	
<p>指標</p> <p>学校全体…芸術鑑賞会 1年生…専門・専修学校体験講座、職業講話 2年生…職場体験学習、卒業生講話 3年生…進路学習、進路懇談</p>	
<p>取組内容④【施策2、道徳心・社会性の育成】 個別の支援計画を作成することで、「障がい」のある生徒の育ちを支援するとともに、自他を尊重しながらまわりの生徒と共にたすけあい、生きる集団をめざす。</p>	
<p>指標</p> <p>個別の支援計画・指導計画をもとに特別支援教育委員会等で検討会を隨時行い、情報を交換し、各学年の取り組みをすすめる。</p>	
<p>取組内容⑤【施策6、国際社会において生き抜く力の育成】 他国の文化にふれることで、自らのアイデンティティを自覚し、多文化共生社会の中で生きていける生徒を育成する。また、さまざまな考え方を受け入れる集団づくりをすすめる。</p>	
<p>指標</p> <p>国際クラブや渡日の子どもたちのための学習会などを週1、2回行う。また、自他の文化を互いに尊重できる集団の育成のための取り組みを、国際理解教育を軸として各学年ですすめる。</p>	
<p>取組内容⑥【施策2、道徳心・社会性の育成】 来年度から、道徳が「特別の教科 道徳」として全面実施される。道徳副読本「きみが いちばん ひかるとき」等の読み物資料を通して、様々な「気づき」を促し、求められる行動につなげていく。</p>	
<p>指標</p> <p>人を思いやる優しい心で、お互いの人権を尊重し社会から必要とされ、求められる子どもを育成する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

平成30年度 学校関係者評価報告書

大阪市立難波中学校 学校協議会

1 総括についての評価

1. **What is the primary purpose of the study?** (10 points)

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：	
年度目標：	
	• • • •

3 今後の学校園の運営についての意見

1. **What is the primary purpose of the study?** (e.g., to evaluate the effectiveness of a new treatment, to explore the relationship between two variables, to describe a population, etc.)